

1. 二酸化窒素 (NO₂)

(1) 全国の状況

平成12年度の二酸化窒素の有効測定局は、1,861局（一般局：1,466局、自排局：395局）であった。長期的評価による環境基準達成局（1日平均値の年間98%値が0.06ppm以下の測定局）は、一般局で1,454局（99.2%）、自排局で316局（80.0%）となっており、その割合は平成11年度と比較すると一般局、自排局とも増加している（図1-1）。また、年平均値の推移をみると長期的には、ほぼ横這いの傾向が続いている（図1-2）。

環境基準非達成局の分布についてみると、一般局については、千葉県、東京都、神奈川県及び大阪府に分布しており、自排局については、自動車NO_x法の特定地域を有する都府県（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県）に加え、北海道、静岡県、愛知県、三重県、京都府、岡山県、広島県、福岡県、長崎県の9道府県にも分布している（図1-3）。

自動車NO_x法・・・自動車から排出される窒素酸化物の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法

図1-1 環境基準適合状況の推移

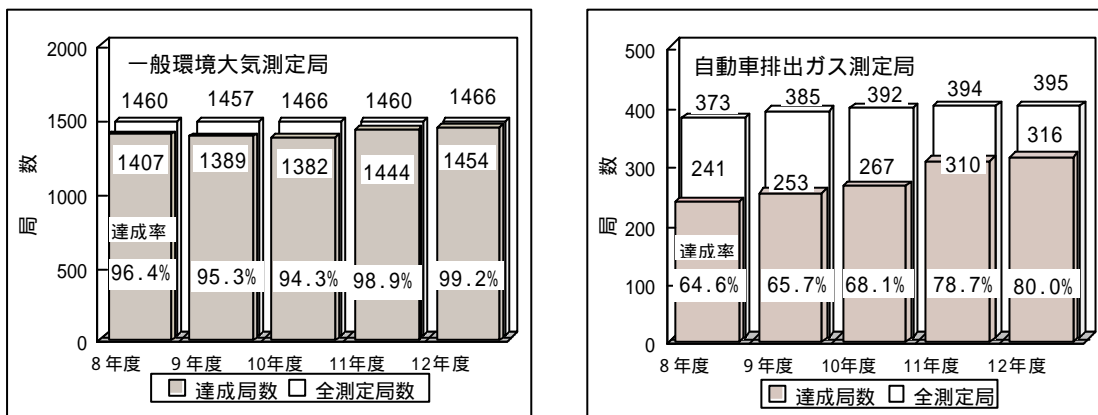
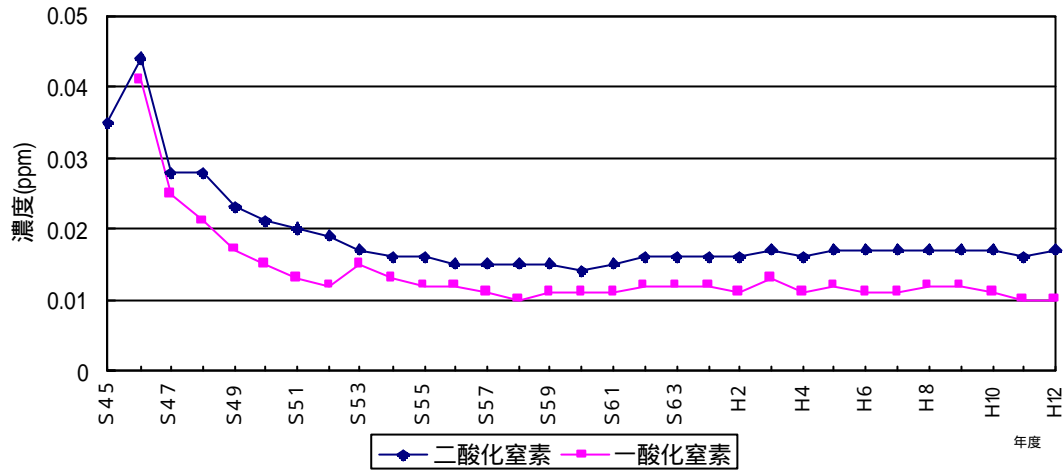


図 1 - 2 全国の測定局における二酸化窒素及び一酸化窒素濃度の年平均値の推移

(一般環境大気測定局)



(自動車排出ガス測定局)

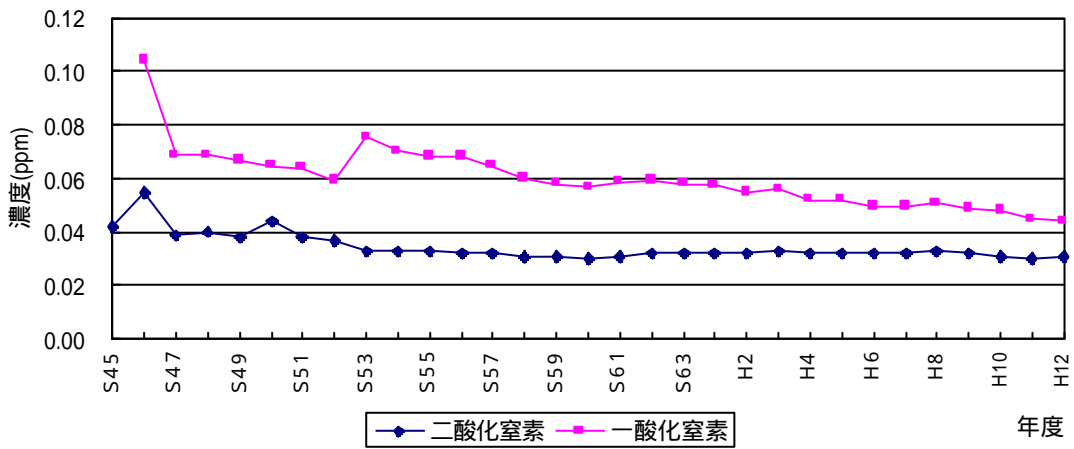
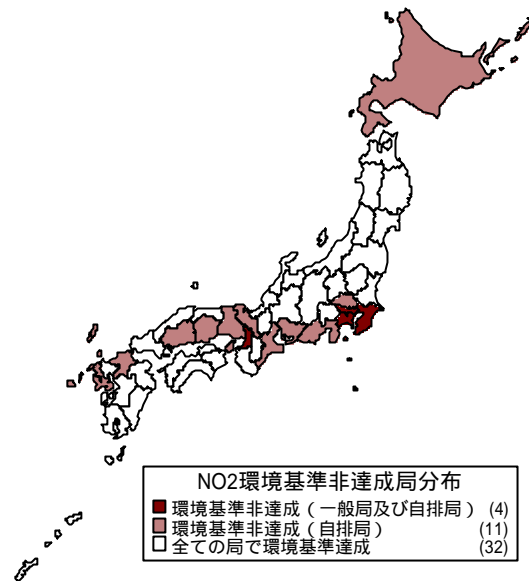


図 1 - 3 環境基準非達成局の分布



()内は都道府県数を示す。

(2) 自動車NOx法の特定地域における状況

平成12年度の特定地域全体での有効測定局数は494局（一般局：322局、自排局：172局）であった。

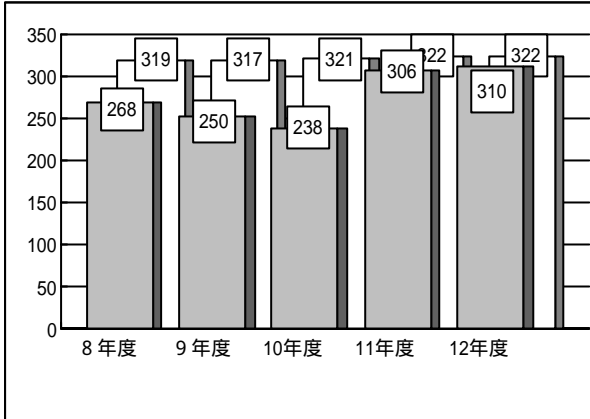
環境基準達成局は、一般局で310局（96.3%）、自排局で108局（62.8%）となっており、その割合は、平成11年度と比較して一般局、自排局とも増加している（図1 - 4）。一方、特定地域内において過去10年継続して測定を行っている413の測定局（一般局：290局、自排局：123局）における二酸化窒素濃度の年平均値は、長期的にみるとほぼ横這いの傾向が続いている（図1 - 5）。

また、二酸化窒素濃度の関東地域及び関西地域における分布を見ると、高濃度が観測された測定局は都心部に集中している（図1 - 6）。

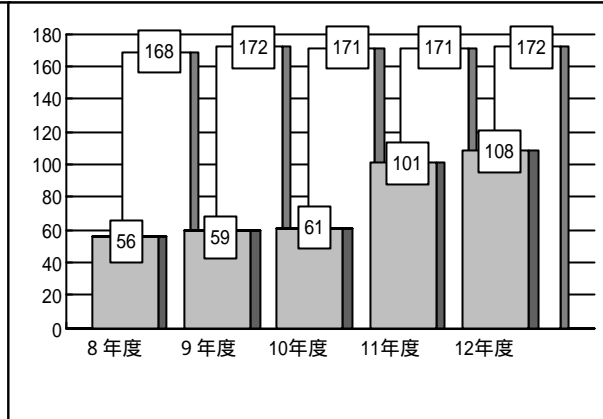
図1 - 4 自動車NOx法の特定地域における二酸化窒素の環境基準の達成状況

特定地域全体

一般環境大気測定局



自動車排出ガス測定局

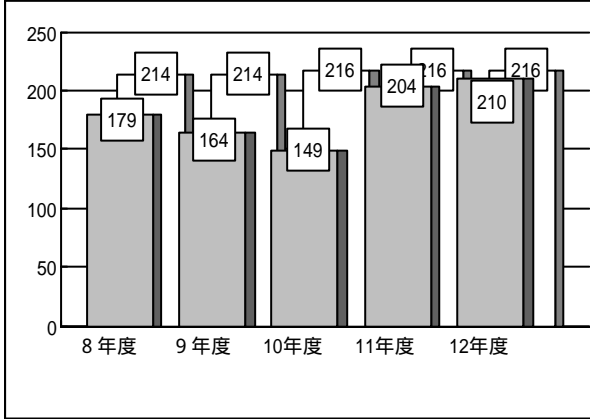


	H8	H9	H10	H11	H12
達成率 (%)	84.0	78.9	74.1	95.0	96.3

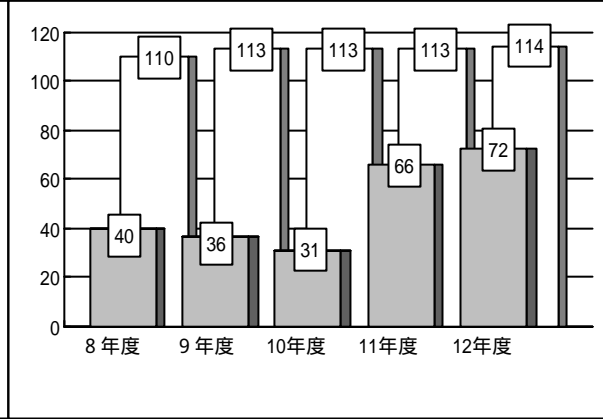
	H8	H9	H10	H11	H12
達成率 (%)	33.3	34.3	35.7	59.1	62.8

首都圏特定地域

一般環境大気測定局



自動車排出ガス測定局

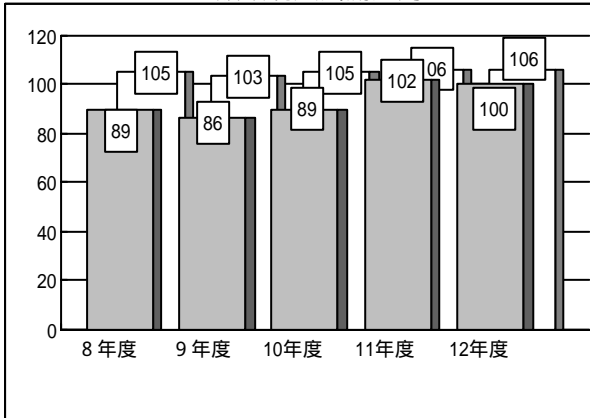


	H8	H9	H10	H11	H12
達成率 (%)	83.6	76.6	69.0	94.4	97.2

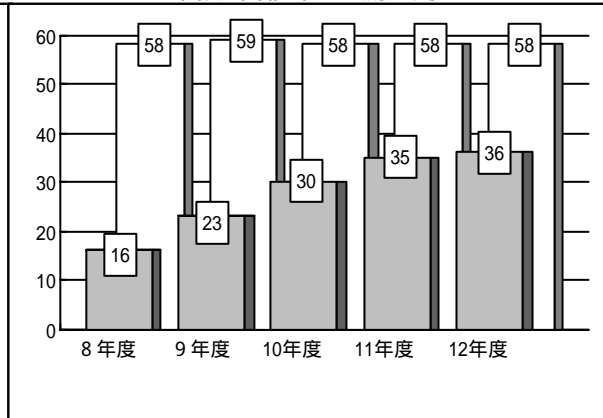
	H8	H9	H10	H11	H12
達成率 (%)	36.4	31.9	27.4	58.4	63.2

大阪・兵庫圏特定地域

一般環境大気測定局



自動車排出ガス測定局



	H8	H9	H10	H11	H12
達成率 (%)	84.8	83.5	84.8	96.2	94.3

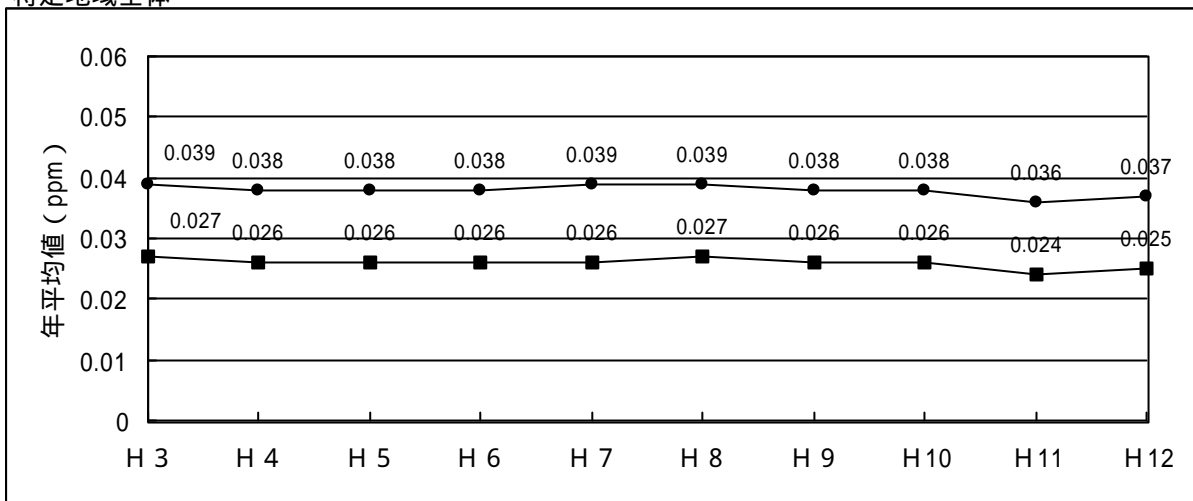
	H8	H9	H10	H11	H12
達成率 (%)	27.6	39.0	51.7	60.3	62.1

■達成局数 □測定局数

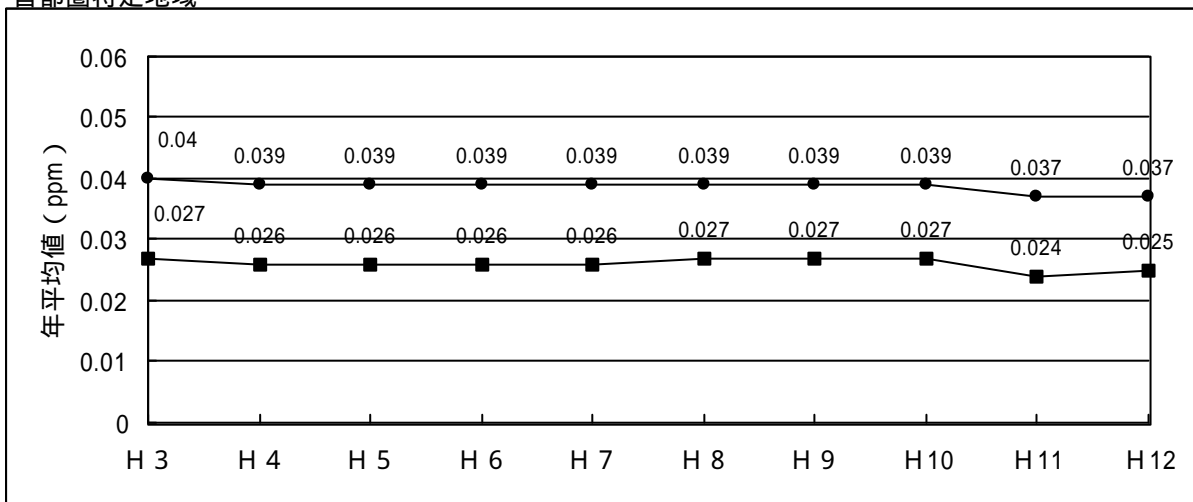
* 縦軸は局数

図1 - 5 二酸化窒素濃度の年平均値の推移（過去10年間の継続測定局の平均）

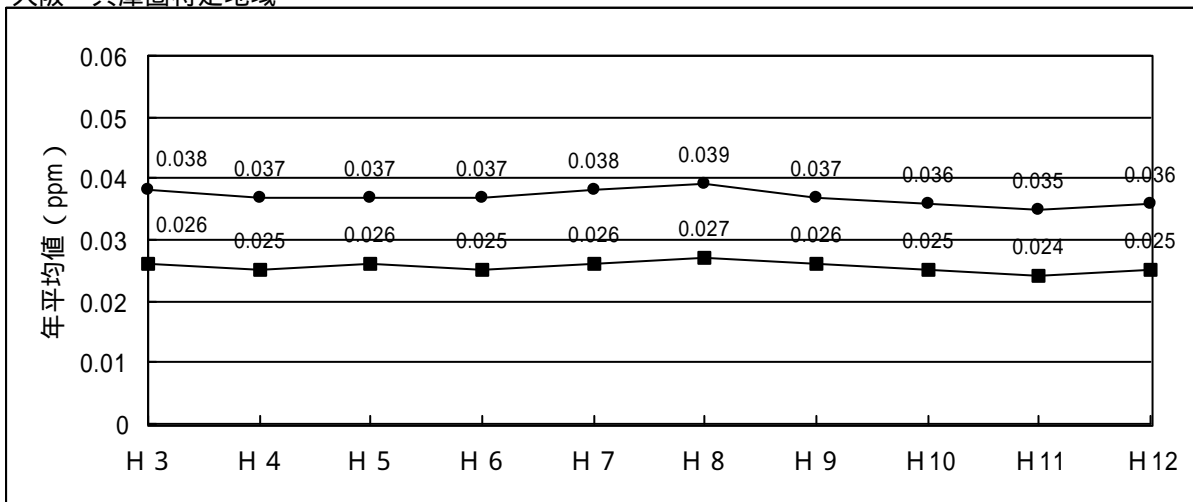
特定地域全体



首都圏特定地域



大阪・兵庫圏特定地域

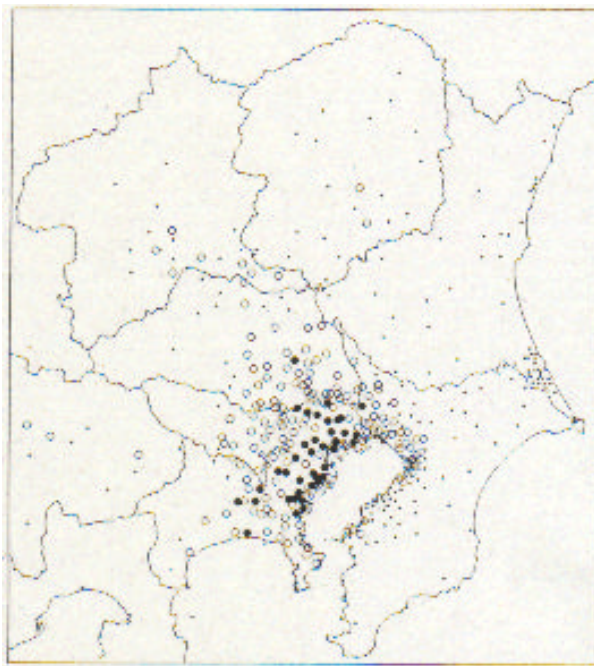


■ 一般局 ● 自排局

図 1 - 6 二酸化窒素濃度の年平均値の分布（一般環境大気測定局）

関東地域

- : 年平均値が0.03ppmを超えた測定局
- : 年平均値が0.02～0.03 ppmの範囲にある測定局
- ・ : 年平均値が0.02ppm未満の測定局



関西地域

- : 年平均値が0.03ppmを超えた測定局
- : 年平均値が0.02～0.03 ppmの範囲にある測定局
- ・ : 年平均値が0.02ppm未満の測定局

